

かがやく

たいよう

【 子どもの目 】

今回は気持ちを楽にして読み流していただける内容にします。
子どもは大人が失ってしまった感性をもっています。小学校で児童たちとかかわっていると、何度もハッとしたり、思わず笑ってしまったり・・・ほんとうに楽しいです。これからは気がついた時に、そんな子どもたちの言葉や行動をお知らせします。今日はその第一回です。

4月9日 入学式。75名の新入生を前に式辞。緊張する一年生の気持ちを少しでも楽にしてあげたい。小学校の楽しさをわかりやすく伝えたい。そんな思いで「すぐにたくさん友だちができるよ」ということを歌って表現しました。

♪♪・一年生になったら、一年生になったら、友だち百人できるかな・・・♪♪

それから2～3日後、校長室のドアを「トントン」とノックする音。
六年生の男の子が立っていました。
私： 「どうしたの？中に入っているよ。」
男の子： 「校長先生が入学式で歌ったうたの続きを知っていますか？」
私： 「うん。一番だけなら。」
男の子： 「友だち百人できるかな・・・のあと、百人で食べたいな、富士山の
上でおにぎりを・・・って続きますね。友だちが百人できたら自分
を入れて、101人でおにぎりを・・・じゃないかな。それとも友
だちが99人しかできなかったのかな？」
私： 「・・・・なるほど！」

子どもっておもしろいなと思います。すごい感性をもっています。大人が常識にとらわれて思いもつかないことを子どもは感じています。子どもとかかわる時、私たち大人はどうしても大人の目で判断したり会話をしたりします。子どもと向き合う時、私たちも子どものころにちゃんともっていた感性を思い起こす必要があるのではないのでしょうか。子どもの気持ちになって・・・・。